

## 教員の自己点検・評価シート（2021年度秋学期）の分析

2022年9月9日  
教学マネジメント会議

### 1. 自己点検・評価シート作成・分析の意義

- 1) 授業科目レベルにおいてP D C Aサイクルを作動させること。教員による目標設定、実施・達成状況の把握、自己評価と次学期へ向けての改善点の認識が重要である。
- 2) 学位プログラムレベル、全学レベルにおけるP D C Aサイクルと作動させること。すなわち全体的状況の把握、良い事例の発掘、教育改善のアクションへの繋がりが重要である。

### 2. 全体的状況の把握

- 1) 多くの科目で、学修成果目標を「達成できた」、「概ね達成できた」というコメントがあった。講義方法の工夫が、学生の興味・関心を高める効果をもたらしたと思われる。
- 2) 資料の改善・充実や、構成の見直し、ミニッツペーパー等の活用方法など、これまでの経験に基づく改善に取り組んでいる例が見られた。
- 3) 基礎教養科目では、各担当教員が専門領域を活かし、それぞれに異なる実務との繋がりを包含しつつ、大学生としての共通スキル向上が図られている。
- 4) 感染防止のため、対面講義でも学生と教員、学生間のコミュニケーションに制約がかかっていることを指摘する意見が散見される。
- 5) 遠隔講義において、学生の理解度の把握や反応を図ることの困難さは引き続き指摘されている。

### 3. 良い事例の発掘

#### 1) 対面講義における遠隔講義の経験の活用

Google classroomやGoogle formは対面講義においてもほとんどの科目において活用されている。遠隔講義の経験に基づいて改善に取り組んでいる例が複数見られた。活用例としては、資料配布、課題回収、連絡・質疑応答等への活用が多い。

#### 2) 遠隔講義における双方向性の確保

遠隔講義では、ミニッツペーパーやフィードバックに取り組むなど、双方向性を改善しようとする取り組みを行っている教員も多かった。視聴確認のための課題と、学生に熟考を促す課題を併用する工夫に言及する記述があった。

Google Driveや各種グーグルアプリ（Google Document・JAMBOARD等）の活用により、受講生がスクリーンを共有して手元デバイスから発信しやすい環境づくり

(同一画面で複数同時に書き込み可能)を試みる教員が増えている。学生同士のアクティブなコミュニケーション促進の工夫がなされている。

3) 情報数理科目でのデータサイエンス志向の強化

情報・数理領域では、コンピュータ操作を学ぶのではなく「データサイエンス」を中心に据えることが意識されている。

4) 語学系科目における授業方法の改善

授業で用いるトピックの選定や論証・ロールプレイ等を用いた講義方法の工夫が、学生の興味・関心を高める効果をもたらしている。

4. 改善事項の発掘

1) Google classroom の活用において、出席しなくても配布資料が入手できることで、出欠への影響を懸念する指摘もあった。

2) 遠隔講義では、学習意欲の低い学生の存在や、学生の反応がわかりにくいことへの不安の声も散見された。

3) 今後も各授業を通じてICT関連リテラシー向上のための指導をさらに充実させることが望まれる。

4) 教員が介入するバランス(全体又は個別)や習得を深める資料の提供等の改善点が挙げられている。

5. アクションに向けての要検討事項の提示

1) 授業評価アンケートの回収率向上の方策

2) 各種ツールの効果的活用方法の事例共有

3) 学生の学習意識や受講マナーの向上に向けた取り組みの実施

4) 関連科目間における講義内容の調整や連携のための協議の場の設定